問題用紙は、試験監督員からの開始の指示があるまで一切開かないでください。

令和４年度

液化石油ガス設備士　法令試験問題

ＬＸ

試験時間　9：30 ～ 10：30

注 意 事 項

⑴ **配布された問題用紙の種類（左上に黒地白文字で示しています。）が受験する試験の種類に間違いがないか、また、問題用紙と受験番号札の色が合致しているかどうか、必ず確認してください。**

万一、異なる場合は、速やかに試験監督員に申し出てください。

⑵ 答案用紙に記入されている受験番号、氏名等を確認し、間違いがあれば「受験者住所等修正票」を請求し、正しい内容を記入して試験監督員に提出してください。

⑶ この試験は電子計算機で採点しますので、答案用紙に記入する際には、記入方法を間違えないように特に注意してください。

電子計算機は、黒く塗りつぶした ● の部分を読みとります。

⑷ 試験問題の解答は多肢選択式です。解答は、各問題の下に掲げてある⑴～⑸の中から、**最も適切なものを１問につき１個だけ選んでください。** １問につき２個以上選択した場合には、その問題については０点になります。

⑸ 解答は、次の例にならって、答案用紙の所定の欄にマークしてください。

「記入例」

問　次のうち正しいものはどれか。

⑴　A　⑵　B　⑶　C　⑷　D　⑸　E

⑶を選択する場合には、 ⑴ ⑵ ⑶ ⑷ ⑸
 ○ ○ ● ○ ○ のように、 ○ の枠いっぱいに、はみ出さないように**ＨＢ又はＢ鉛筆**で黒く塗りつぶしてください。

⑹ **試験問題に関する質問にはお答えできません。**

⑺ **「問題用紙」及び「答案用紙」は、試験監督員の指示に従い必ず提出してください。**

次の各問について、特に記述のない場合、液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（以下「液化石油ガス法」という。）に係る法令上正しいと思われる最も適切な答えをその問の下に掲げてある⑴、⑵、⑶、⑷、⑸の選択肢の中から１個選びなさい。

なお、経済産業大臣が危険のおそれのないと認めた場合等における規定は適用しない。

問１　次のイ、ロ、ハの記述のうち、正しいものはどれか。

イ．液化石油ガスを自家用自動車の燃料として使用する者は、「一般消費者等」である。

ロ．「液化石油ガス」とは、プロパン、ブタンだけを液化したもの（その充てんされた容器内又はその容器に附属する気化装置内において気化したものを含む。）である。

ハ．液化石油ガス法は、公共の福祉を増進することを目的として、一般消費者等に対する液化石油ガスの販売、液化石油ガス器具等の製造及び販売等を規制している。

⑴　イ　　⑵　ハ　　⑶　イ、ハ　　⑷　ロ、ハ　　⑸　イ、ロ、ハ

問２　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が1000キログラム未満である供給設備（バルク供給に係るものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．内容積が20リットル以上の充てん容器は、特に定められた場合を除き、その容器を置く位置から２メートル以内の火気をさえぎる措置を講じ、かつ、屋外に置かなければならないと定められているが、この定めは残ガス容器には適用されない。

ロ．充てん容器等には、湿気、水滴等による腐しょくを防止する措置を講じなければならないが、この定めはその容器に取り付けられたスカートにも適用される。

ハ．容器による貯蔵設備は、その外面から第一種保安物件及び第二種保安物件に対して、有するべき距離は定められていない。

⑴　イ　　⑵　ロ　　⑶　ハ　　⑷　イ、ハ　　⑸　ロ、ハ

問３　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵設備の貯蔵能力が 900 キログラムである供給設備（バルク供給に係るものを除く。）の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．供給管の内部に液化物が滞留するおそれがあるので、その液化物を排除することができる措置を講じた。

ロ．二段式減圧用一次側調整器と二次側調整器の間の供給管は、工事の終了後、0.1 メガパスカルで行う気密試験に合格することを確認した。

ハ．気化装置に液状の液化石油ガスの流出を防止する措置を講じたので、その気化装置は、直火で直接液化石油ガスを加熱する構造のものを使用した。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　ロ、ハ

問４　次のイ、ロ、ハの記述のうち、貯蔵能力が 950 キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．バルク貯槽に設ける安全弁は、ふた付きのプロテクターで保護されていなければならない。

ロ．地上に設置するバルク貯槽の基礎は、平坦なコンクリート盤等による水平、かつ、地盤面と同一高さのものとし、かつ、不同沈下等によりバルク貯槽に有害なひずみが生じないようなものであること。

ハ．バルク貯槽は、その外面から第一種保安物件に対し 1.5 メートル以上、第二種保安物件に対し１メートル以上の距離を有していなければならないが、所定の構造壁を設けた場合には、この距離を有しなくて良い。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問５　次のイ、ロ、ハの記述のうち、地盤面下に埋設する貯蔵能力が 950 キログラムのバルク貯槽による供給設備の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．バルク貯槽の外面から２メートル以内にある火気をさえぎる措置は、講じなくてもよい。

ロ．プロテクターのふたは、厚さ５センチメートル以上の不燃性の断熱材を裏当てしなければならない。

ハ．バルク貯槽の周囲には、ガス検知用の孔あき管を所定の方法に従って設置しなければならない。

(1)　ハ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問6　次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定供給設備の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．貯蔵設備が地盤面上に設置するバルク貯槽であって、その貯蔵能力が2000キログラムであるバルク貯槽の外面から第一種保安物件まで必要な距離が確保できないため、第一種保安物件に対し、所定の鉄筋コンクリート造りの障壁を設けた。

ロ．貯蔵設備が容器であって、その貯蔵能力が3000キログラムである貯蔵設備に、所定の消火設備を設けた。

ハ．貯蔵能力が3000キログラムであるバルク貯槽2基を、そのバルク貯槽相互間に30センチメートルの間隔を保って地盤面下に埋設した。

(1)　ロ　　(2)　ハ　　(3)　イ、ロ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問7　次のイ、ロ、ハのうち、保安業務の区分として定められているものはどれか。

イ．緊急時連絡

ロ．書面の交付

ハ．漏えい試験

(1)　イ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問8　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準に適合しているものはどれか。

イ．配管には、腐しょくを防止する措置を講じた。

ロ．配管は、その設置の工事の終了後に5.5キロパスカルの圧力で気密試験を行い、合格することを確認した。

ハ．配管は、耐圧試験に合格したものを使用したので、漏えい試験を省略した。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ロ　　(5)　イ、ロ、ハ

問9　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．ガスメーターと燃焼器の間の配管その他の設備は、燃焼器の入口における液化石油ガスの圧力を、生活の用に供するものにあっては2.0キロパスカル以上3.3キロパスカル以下の範囲に保持するものであること。
ロ．損傷を防止する措置を講じた配管は、建物の基礎面下に設置することができる。
ハ．屋内に設置する自然排気式のふろがま（密閉式のものを除く。）に設ける排気筒（排気扇が接続されているものを除く。）の有効断面積は、そのふろがまの排気部と接続する部分の有効断面積より小さくないこと。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問10　次のイ、ロ、ハの記述のうち、消費設備（質量により液化石油ガスを販売する場合のものを除く。）の技術上の基準について正しいものはどれか。

イ．屋内に設置する自然排気式のガスバーナー付きふろがま（密閉式のものを除き、ふろがま出口の排気ガスの温度が100度を超えているもの）は、その排気筒の天井裏にある部分を金属材料で覆わなければならない。
ロ．液化石油ガスの消費量が10キロワットのガス瞬間湯沸器は、換気扇又は有効な給排気のための開口部が設けられた室に設置することができる。
ハ．屋内に設置されている密閉式ふろがまの給排気部の先端は、屋外に出ていなければならない。

(1)　イ　　(2)　ロ　　(3)　ハ　　(4)　イ、ロ　　(5)　ロ、ハ

問11　次のイ、ロ、ハの供給設備又は消費設備の設置又は変更の工事に係る作業のうち、液化石油ガス設備士でなければ従事してはならないものはどれか。

イ．耐圧試験の作業
ロ．硬質管の取り外しのために硬質管を切断する作業
ハ．硬質管の寸法取りの作業

(1)　ハ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ

問12 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備工事のうち、その設備工事を行った者が、遅滞なく、その旨をその設備工事を行った施設又は建築物の所在地を管轄する都道府県知事に届け出なければならないものはどれか。

イ．図書館の暖房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵設備の貯蔵能力が 600 キログラムであるものを設置する工事
ロ．ホテルの厨房のための燃料として業務の用に供する液化石油ガスの供給設備であって、その貯蔵能力が 800 キログラムであるものの、調理用燃焼器の増設に伴う消費設備の配管を延長する工事
ハ．共同住宅において、液化石油ガスを燃料として生活の用に供するための供給設備の変更の工事であって、その供給設備に係る貯蔵設備の貯蔵能力を 300 キログラムから 400 キログラムに増加する工事

(1) イ　(2) ロ　(3) イ、ハ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問13 次のイ、ロ、ハの特定液化石油ガス設備工事に関する記述のうち、正しいものはどれか。

イ．特定液化石油ガス設備工事の事業を行う者は、事業所ごとに、その事業を行うことについて、あらかじめ都道府県知事の許可を受けなければならない。
ロ．同一型式の調整器を交換する際、その調整器と硬質管の接続に係る工事は、特定液化石油ガス設備工事に該当する。
ハ．特定液化石油ガス設備工事事業者は、その事業者が記録を作成しなければならない特定液化石油ガス設備工事をしたときは、その工事に係る記録及び配管図面を、その工事に係る事業所において５年間保存しなければならない。

(1) イ　(2) ロ　(3) ハ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問14 次のイ、ロ、ハの液化石油ガス設備士に関する記述のうち、正しいものはどれか。

イ．液化石油ガス設備士試験に合格した者は、その試験を実施した都道府県知事から液化石油ガス設備士免状の交付を受けることができる。
ロ．液化石油ガス設備士は、液化石油ガス設備士免状の交付を受けた日の属する年度の翌年度の開始の日から５年ごとに、液化石油ガス設備工事に係る災害の発生の防止に関する講習を受けなければならない。
ハ．令和２年度の液化石油ガス設備士試験に合格して液化石油ガス設備士免状の交付を受けた者は、バルク供給に係る「定期供給設備点検」を行うことができる。

(1) イ　(2) ハ　(3) イ、ハ　(4) ロ、ハ　(5) イ、ロ、ハ

問15　次のイ、ロ、ハの記述のうち、特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律に係る法令上正しいものはどれか。

イ．この法律は、特定ガス消費機器の設置又は変更の工事の欠陥に係るガスによる災害の発生を防止するため、これらの工事の事業を行う者の工事の監督に関する義務等を定めることを目的としている。

ロ．特定ガス消費機器であって、屋外に設置されるものの設置又は変更の工事（屋内に位置を変更するものを除く。）は、経済産業省令で定める軽微な工事である。

ハ．液化石油ガス設備士は、特定工事を自ら行うことができるが、ガス消費機器設置工事監督者の資格を有していない者を実地に監督して特定工事を行わせることはできない。

(1)　イ　　(2)　イ、ロ　　(3)　イ、ハ　　(4)　ロ、ハ　　(5)　イ、ロ、ハ